

医学研究センター

知財戦略研究推進部門

岡崎 康司

(部門長 ゲノム医学研究センター・所長 教授)

知財戦略研究推進部門は平成17年8月に創設された「知的財産管理運用部門」と「産学連携部門」を平成19年12月に統合し新たなスタートを切ることになりました。両部門を統合した大きな目的は2つあります。1つは知的財産の創出・管理と知的財産の活用を一部門に集約させることにより、産学連携のスピードを高め、共同研究費などの外部資金を増やすこと。2つ目として産学連携活動を含めた外部資金獲得や大型の公的資金を獲得するための戦略を立てること。大学には研究成果である知的財産の帰属や取扱を明確にし、その管理や活用を戦略的に行うことが求められており、近年では公的資金を獲得する上でも大学にしっかりとした知財マネジメント態勢があることが大学のひとつの評価項目となっています。外部グラントを大学として戦略的に獲得する上でも、このような態勢を作り運営することは必須となりつつあります。

昨年度末に本学が初めてCOEプログラムへ申請することが決まると、知財戦略研究推進部門が中心となり各事業推進者の先生方と調書の作成を進め、最終的に「ゲノム情報医療展開医科学の教育研究拠点」として取りまとめることができました。

また、両部門が統一されたことにより本学の知財活動が加速したことも評価対象となり、平成18年に採択された特許庁委託事業である「知的財産統括アドバイザー派遣事業」が延長され現在に至っています。

以下、知財戦略研究推進部門の様々な成果や活動状況についてご紹介させていただきます。

■特許成立

積極的な研究者との面談や企業との交渉を経て現在2件の特許が成立しました。

①発明の名称：ホモ接合指紋法による同祖領域判定方法、同祖領域判定装置、及び遺伝子スクリーニング方法（特許第4059517号）

発明者：萩原 弘一 先生

②発明の名称：高感度な既知変異遺伝子検出方法、およびEGFR変異遺伝子検出方法（特願2005-117698（特許査定））

発明者：萩原 弘一 先生、長井 良昭 先生、  
宮澤 仁志 先生

■海外出願支援

今後は、知的財産管理運用部門として、本学で生まれる発明を日本のみならず外国においても積極的に特許として権利化していきたいと考えております。しかし、外国で権利化をするためには、多額の資金が必要になってくるため、科学技術振興機構の海外特許取得のための出願費用支援制度に申請し外国での権利化を図っていく必要がありました。

本年は積極的にJST支援を申請し、1件（発明者：井上 聡 先生、池田 和博 先生、発明の名称：子宮癌及び乳癌の予防乃至治療に好適な二本鎖核酸分子、癌細胞増殖抑制剤、並びに医薬、出願番号：特願2007-162641）が採択されました。



## ■研究者訪問

本年に入り42人の先生方と研究内容について面談を行いました。その結果4件の発明を特許出願しました。特許は公知になる前に出願を済ませておく必要がありますが、残念ながら現在でも学会発表後や学会発表直前に特許申請を望まれる先生もいらっしゃいます。知財戦略研究推進部門としては、今後も多くの先生方に「特許出願の相談は抄録作成時にお願います」と啓発作業を続けていく必要があると考えております。

## ■「ラボノートの書き方」執筆

米国特許法の特徴として最も重要な先発明主義に対する防御、及び「データ捏造問題等」を未然に防ぐ体制を作るため、本学のメンバーを中心に「ラボノートの書き方」を執筆しました。現在、学内の啓発作業に活用しています。



## ■学術集会開催

開催日：2007年12月19日

テーマ：研究計画とIPポジションー研究ステージと特許取得のタイミングー

講師：長谷川国際特許事務所 所長 長谷川 智子 先生

近年、JSTなどの特許費用に関する支援を受ける際に、研究計画と特許取得のタイミングを指摘される事例が増えてきました。また、学外グラントにおいても、研究による特許取得の可能性や、その特許の市場規模等を記載する必要性が増してきているため、その様な研究環境において、長谷川先生からは製薬企業の知財部門をはじめ、弁理士事務所とベンチャーキャピタルでご活躍された経験を基に、研究ステージと特許取得のタイミングに関して研究者が今後気をつけなければならない事例等を紹介していただきました。

## ■契約勉強会「大学職員なら知っておきたい契約の基礎知識」(4回シリーズ)開催

平成19年度より本学に派遣されている大学知財管理アドバイザーの飯野客員教授に講師をお願いし、基本的な契約の仕組みから契約書の読み方までを講義いただきました。

第1回：平成20年7月30日

テーマ：大学職員なら知っておきたい契約の基礎知識ー総論

第2回：平成20年8月6日

テーマ：「仕事におけるなぜ?」「本学にとって良くない契約例」「本学にとって良い契約例」

第3回：平成20年8月20日

テーマ：「契約書例として、最近締結された共同研究契約書、及び受託研究契約書について」

第4回：平成20年8月27日

テーマ：「契約書例として、最近締結された共同研究契約書、及び受託研究契約書について」「平成14年度税制改正受託研究の非課税措置の創設について」

## ■連携7大学産学連携セミナー参加

平成19年11月、本学と埼玉りそな銀行は医療分野の研究成果を地域社会発展に活用することなどを目的として相互協力の覚書を締結しました。本セミナーは埼玉りそな銀行が中心となり、7大学(埼玉大学、女子栄養大学、日本工業大学、東洋大学、西武文理大学、埼玉医科大学、埼玉工業大学)と埼玉県内の企業が参加しました。

開催日：平成20年10月7日(火)13時～17時

開催場所：大宮ソニックシティ

本学からは、下記の研究成果が発表され、現在はいくつかの企業と知的財産の活用に関して交渉しております。

テーマ	研究テーマ	発表者
医療器具の開発	経口手術の確率	小山 勇
	高輝度LEDの医療応用	小山 勇
	プラズマの医療応用	小山 勇
食品	透析患者の主食としての低グルテリン米の有用性	菅野義彦、鈴木洋通
	凍結乾燥豆腐療法は月経関連片頭痛、片頭痛、前兆、および生理痛、更年期障害関連諸症状を著名に改善する	金 浩澤、 島津邦男
治療法、診断法の開発	子宮癌及び乳癌の予防乃至治療に好適な二本鎖核酸分子、癌細胞増殖抑制剤、並びに医薬	井上 聡、池田和博
	標準化判定量Real-time PCRを用いた総括的病原体検索による呼吸器感染症起炎菌診断	平間 崇、山口剛史、嶺崎祥平、小林国彦、永田 真、金澤 實、萩原弘一
	骨芽細胞分化と脂肪細胞分化に影響を与えるマイクロRNA	水野洋介
	ヒト細胞を効率良く遺伝子操作する技術の開発	三谷幸之介
	遺伝子発現を用いた乳がん医療	佐伯俊昭
	微生物や科学物質のアレルギー誘導活性	松下 祥
	3D MEMS スキャナ	吉澤 徹、若山俊隆
	小型内面形状測定装置の開発	吉澤 徹、若山俊隆

### ■メディアに取り上げられました

テレビ東京 ワールドビジネスサテライト

平成20年10月14日(火) 23:00～23:54

特集「知の争奪戦」：休眠特許をめぐる国際的な争奪戦を追う。

知財戦略研究推進部門長・ゲノム医学研究センター所長 岡崎康司 教授等 出演

### ■「利益相反規定」の策定支援

現在、知的財産の活用を推し進めるに当たり、「利益相反規定」の策定を支援しております。上述のとおり、産学連携を進めることが大学の役割の一つになっておりますが、連携の結果、教員や大学職員が企業等の関係で有することになる利益や義務と、大学がその使命に基づき教員や大学職員に求める義務とが衝突する場合も生じうるためです。

本学の皆様には知財戦略研究推進部門の活動内容にご理解をいただき、発明に関する素朴なご質問や実際の発明案件等がございましたらお気軽にお声をかけていただきたいと思います。現在はゲノム医学研究センターの6Fに知財戦略研究推進部門の部屋がありますが、ご相談があればこちらから皆様の下へうかがわせていただきます。

本年も知財戦略研究推進部門を何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責 安河内正文)

部門長	岡崎 康司	教授
副部門長	西山 正彦	教授
副部門長	安河内 正文	客員講師
部門員	須田 立雄	客員教授
部門員	竹内 勤	教授

部門員	三谷 幸之介	教授
部門員	佐々木 康綱	教授
部門員	菅原 哲雄	助教
部門員	山田 栄一	実験助手
大学知財アドバイザー	飯野 顕	客員教授